

ユーラシアンホットライン

クラブ創設 20 周年の集いは 4 月 28 日(日)、日本橋三越前のレストランで

これからの 10 年を見据え、江藤セデカ理事長、バーボルド副理事長を中軸とした活動を展望します

ユーラシアンクラブ 会長 大野 遼

旧ソ連崩壊から一年後、1992 年 9 月、新聞での募集に応じた 10 数人の参加者が日本海対岸の先住少数民族村の視察ツアーに参加した。ツアーは二系統で実施され、一つは沿海地方最大のウデゲの少数民族村クラスニヤールを中心とした原生林視察ツアー、もう一つはアムール川下流のウリチの少数民族村ブラバを中心としたツアー。一行はハバロフスクで合流して舟で、シカチアリヤン村に上陸、村を視察後、ハバロフスクに戻り、ハバロフスク地方政府庁舎の中で、少数民族村の自立的発展の可能性について議論した。この議論の最後に提案したのがユーラシアンクラブであった。ユーラシアンクラブの大きな目的の一つは、人間関係の枠組みを通じた少数民族村の経済的自立の支援が当初からあった。私は、テレビ局の取材に応じる形であったにせよ、ロシアの若い F S B (KGB) 職員によって、この「(経済的) 自立支援」を「(政治的) 自立支援」のように吹聴された結果、最後の最後に、ロシアでの活動は挫折した。私は、20 年余りのロシアでの活動を通して、仲介した地方政府関係者や学術機関関係者、少数民族団体指導者らに翻弄された。その結果、10 数年を対応に追われ、少数民族村からの撤退を余儀なくされた。

ユーラシアンクラブは、日本海対岸の少数民族村を視野に、日本列島のアイヌ、ユーラシア大陸の大国の狭間で暮らす諸民族の人々を対象に、お互いの理解・親睦・協力を掲げ「民族の共生」と「自然との共生」を模索するものとしてスタートしたのであるが、私は人間について多くのことを学ぶことになった。

ユーラシアンクラブ創設に先立って私は 10 年ほど、日本列島の人と文化の成り立ちについて調査研究する北方ユーラシア学会(故江上波夫会長)の理事・事務局長として、アルタイ山脈のスキタイ(パジリク)文化の凍結墓の発掘調査や旧石器時代の遺跡調査、バイカル湖周辺からシベリア各地の人類学調査、沿海地方の少数民族調査、奈良・平安時代に日本海を渡って大和朝廷と交流していた渤海使節が船出した港湾遺跡の発掘調査などさまざまな調査を組織していた。この学会を創設したメンバーは、当時の日本を代表する学術界の指導者ばかりで、私が北方ユーラシア学会からユーラシアンクラブ設立にシフトした後も、今でも陰ながら応援を頂いている。私は、小学生の頃から、小舟で日本海を渡り大陸奥深くに立つという幻影がインプットされており、高校生の頃に、川越駅前の書店で手に取った加藤九祐先生のシベリアに憑かれた人々の本を知り、後に私が勤めていた大阪で、国立民族学博物館が設置され、そこに加藤九祐先生が赴任されたことを知ってから、人生が大きく旋回した。当時私は、メディアの記者として、日本の歴史学や文化財を取材し、メディアの記者たちに取材のノウハウを研修したりもしていたが、日本人の歴史理解が、国内的にも対外的にも南方の系譜に偏っていることを正さなくてはならないという気持ちを強く持っていた。そうした時、旧ソ連の中ではペレストロイカの波が寄せ、神戸に着岸したソ連船の中に、シベリアの少数民族関係者がおり、取材したり、国立民族学博物館に訪れるソ連の研究者と接触しているうちに、当時

筑波大学の人類学系の責任者だった加藤晋平教授に面会し、「日本人の北方基層を探る会」を立ち上げ、加藤九祐、坪井清足、田中琢、松本秀雄、田中稔、大林太良ら学界の錚々たる人たちに交じって「北方ユーラシア学会」を創設した。私は加藤九祐先生、加藤晋平先生のお供をしながらノボシビルスクやアルタイ山脈に 5 年ほど通い、さまざまな調査に立ち会った。そして実現したのがアルタイ山脈のスキタイ(パジリク)文化の凍結王墓の発掘であった。この計画は、ゴルバチョフ書記長訪日の際には、日ソ政府間公文で「日ソ共同調査」として記載され、ウラジオストクからシベリア鉄道でコンテナ 8 本分の調査機材(大型トラック、バックホー、冷凍コンテナ、写真機材一式ほか)を送り、調査機材の調達では、田中琢氏や樋口直正氏らの協力を得た。こうして 100 人余りの諸学会の研究者を現地に派遣し、旧ソ連崩壊の年 8 月、ゴルバチョフ氏が拉致される報道を聞きながら、発掘が行なわれた。私は並行して、渤海遺跡や日本海対岸の新石器遺跡、民族調査の実施のため、当時閉鎖されていたウラジオストクのソ連科学アカデミーシベリア支部代表とコンタクトし、坪井清足、荻原真子という錚々たる研究者とウラジオストクを訪問し、学術調査の協定書を結び、渤海港湾遺跡発掘、新石器時代の遺跡調査、民族調査などその後の調査進展につながった。

ユーラシアンクラブの構想は、私が文部省の記者クラブに詰めていた頃から脳裏にあったものだが、ユーラシア文化センターを設立する計画があり、メディアを退社した後、自力で立ち上げる形で、北方ユーラシア学会を通じた学術交流とユーラシアンクラブの立ち上げは、並行して進めた。学会が、研究者同士の直接の交流が始まるのに合わせて、私は学会を離れ、ユーラシアンクラブに専念することになった。

旧ソ連時代に民族村を訪ね、旧ソ連崩壊と共にただちに、視察ツアーの実現を構想し、事前準備にかかった。冒頭記した視察ツアーであった。

ユーラシアンクラブは、視察ツアーの翌年 2 月 10 日、九段会館で開催された国際シンポジウムに、沿海地方、アムール流域の先住少数民族村代表 14 人と日本列島の先住民族アイヌの代表を招き、様々な方向について話し合った。その中の一つは、少数民族村の産業経済の発展であって、ハバロフスク地方文化局からの求めに応じて合弁会社も設立されたが、責任者の私的運用が目立ち挫折、文化の保護や活用でも村側の意識と行政側の意識ギャップは大きく、思うようにはならなかった。拠点として入手したキャンプも、文化局、そして先住民族協会指導者による私的乱用によって利活用が阻まれた。シカチアリヤン村では、富山県のカーテン製造会社(東林勉社長:故人)提供の生地を活用した小物製作マシン工場の整備、クラスニヤールでは山菜(ゼンマイ)の乾燥加工技術研修(荒井忠司さん;クラブ創設幹事)や郵便貯金ボランティア基金を使ったパッキング機械の寄贈で販売が開始、といった成果を上げたが、姉妹村が実現しなかった。村のフォローがなかったのも一因であるが、その前提

としての意識ギャップが大きかったというしかない。私は少数民族村から撤退するが、最後の仕事として、「300 人の村の古代絵画展」を 2015 年 5 月に、国立民族学博物館で開催の予定である。

苦渋一杯の極東での体験であったが、先住少数民族を含めユーラシアの諸民族の理解促進のための活動は、民族誌映像を見る会、インターカレッジ文化講座ユーラシアンフォーラム、留学生フォーラム、アジア・シルクロード音楽フェスティバルなどの形で継続され、一定の評価を得た。近年になって、多くの若者がアジア各地を訪問する時代となったが、5 年ほど前までは、ユーラシアやアジアの諸民族の理解を得ることさえ難しい時代が続き、20 年前に立ち上げたクラブを通じた協力事業は、前提となるユーラシア諸民族の理解を欠いた状態で、今にして思えば、産業経済の発展も文化の保護協力も時期尚早であったのかと思うばかりである。

とはいえ、細々とした線のような形ではあったが、クラブ創設当初からの支援者である井口隆太郎理事、クラブ創設以前からの理解者である高橋一夫・監事ら、批判と支持の眼で私を支えてくれた多くの仲間の援助で活動を続け、5 年ほど前からの議論の末に「日本人クラブからの脱皮」「地域拠点型活動への転換」「情報通信ネットワーク化」を目指した活動の軌道修正の末に、「ユーラシアンクラブ

の今後の 10 年」を見据えて、昨年 6 月、江藤セデカ、バーボルド（富川力道）を中心とした新しい理事長、副理事長の下で活動が模索されることになった。

日本も含めたアジアの基層文化に大きな影響を与えたペルシャやモンゴルの文化をしっかりと視野に入れ、国家・民族・宗教を超えた新しい理解・親睦・協力の促進を目指す活動が展開されることになります。私のできることはやりながら、江藤セデカ理事長、バーボルド副理事長を支えていきたいと考えている。皆様の変わらぬご理解とご支援をお願いいたします。

ユーラシアンクラブ創設 20 周年の集いは、2013 年 4 月 28 日（日）、東京都中央区日本橋室町・三越前イタリアンレストラン「カレンダー（CALENDAR）」；東京都中央区日本橋室町 1-5-3 福島ビル 9F 電話：03-6225-2090 地下鉄「三越前」駅 A1 出口から 40m で開催します。会費 4 千円 開場 1 時 開会 1 時半～5 時

江藤セデカ理事長、バーボルド副理事長を中軸とする新生ユーラシアンクラブの門出を激励し、国家民族宗教を超えて民族の共生と自然との共生を模索する活動を応援してください。皆様のおいでをお待ちしています。

● 10 月 12 日（土） 第 3 回中津川モンゴルフェスティバル開催が決定

ユーラシアンクラブ・愛川サライとモンゴル・ブフ・クラブ、宮ヶ瀬ダム周辺振興財団が共催し、中津川モンゴルフェスティバル実行委員会を構成して主催する第 3 回中津川モンゴルフェスティバル（神奈川県立あいかわ公園）は、10 月 12 日（雨天順延 13 日開催）に開催されることが決まりました。今後フェスティバルの詳細は検討されることになりますが、ユーラシアンクラブ、モンゴル・ブフ・

クラブが 20 周年を迎えるほか、モンゴル国のウランバートルで誕生したモンゴル文化教育大学（日本語教育も行っている）も設立 20 周年を迎えることから合同で記念行事を行うことになり、日本の大相撲界からもモンゴル人力士が参加することが期待できます。詳細は次号で紹介します。

【アルタイ通信】2 号 緑の海アルタイからのメッセージ「昔兄弟だった—アルタイ人」

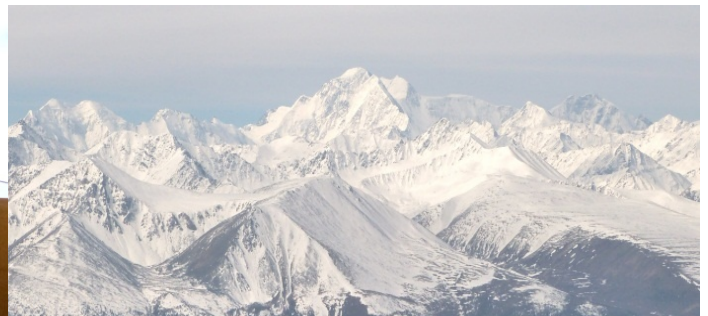
前回の号で、エドワルド・バブラシェフさんが記したロシア連邦アルタイ共和国は、ロシア南部に位置しモンゴル、中国、カザフスタンに国境を接した人口約 20 万人、北海道より少し広い面積の共和国です。アルタイ人が約 30%、ロシア人が約 60%、カザフスタ



首都ゴルノアルタイスク日本語学校教師 泉地 俊孝 ン人その他約 10%です。

アルタイ人であるエドワルド・バブラシェフさんはウズベキスタンのリシタン市を訪れた時、そこで「NORIKO 学級」・ジャパンセンターの存在を知り、アルタイでも日本センターをとの構想をもちました。2011 年 6 月菅野青年（現ユーラシアンクラブ理事；新進デザイナー）が 3 カ月間ここで活動し、その礎を築きました。私は同年 10 月にこのゴルノアルタイスク市へ来て、3 カ月毎（ビザの関係）計 3 回 9 か月近い活動を行っています。

私の活動の中心は日本語を教えることです。日本語教室には



氷河を抱えるアルタイ山脈最高峰ペルーハ

日本と日本語に関心と興味がある人がつぎつぎと集まってきます。今まで約 60 名の人が入門し、現在約 20 名が 5 クラスに分かれて学習中です。

15 歳から 22 歳までの女子学生が多いですが、30～50 歳の社会人 3 名も最初から熱心に学習しています。ほとんどの人が初心者で「あいうえお」の発音、書き方から始めます。皆「ひらがな」

「カタカナ」の発音と形を一致させるまで苦労しますが、この山を越えると、同じアルタイ語族に属する日本語を覚えるのは早いです。現在、半分近くの学習者が「わたしは アルタイが とても好きです。」「アルタイで いちばん たかい やまは ベルーハです。」が読み書き話せます。あと数年で日本からの観光客（今はほとんどいませんが）に日本語でガイドできるのではないのでしょうか。そして、この日本語を活用して色々な方向へ広がっていくのも夢ではありません。日本語学習以外には、不定期ですが「巻きずしの作り方の講習会」、



まだ少人数ですが「習字」と「そろばん」が始まりました。

日本語教室のあるゴルノアルタイス市は共和国の首都で人口 6 万人の町です。町を走る車の 7 割以上が日本車で、巻き寿司のレストランが数店あり、合気道の道場は 10 年前から開かれ多くの人が稽古に励んでいます。日本人のいないこの町

でも、このように日本と多くの関わりを持っています。

また、このアルタイ共和国には、喉歌「カイ」に代表される伝統的な民族音楽。マラル（アカ鹿）の角の精力剤、ここで採れる甘草を使った漢方薬、名産のベリー・ハチミツ・松の樹液などから作る健康滋養食品。世界遺産となっているペルーハ（4506m）を最高峰とする黄金山地。その他紹介できることがたくさんありそうです。次号から、その一端をこちらの日本語学習者たちと共に伝えてできればと思っています。

【マレーシア通信】第 13 号

正しい『マングリッシュ』の話し方

板坂 優一

● 板坂 優一：1983 年生まれ。北海道出身。2009 年の冬からバックパックとギターを背負って中国からシリアまでアジア横断の旅へ。そこで見た『イスラムの世界』に魅せられ、現在マレーシアのペナンにてアジアの文化、特にイスラム圏について宗教、社会などの勉強をしている。

以前も少し書いたが、マレーシアやシンガポールでは共通の言語として英語が使われている。言うまでもなく、英語は今日の国際社会では欠かす事は出来ない言語だ。もちろん英語でコミュニケーションする機会が増えて来ているのは間違いなく、英語を話せる様になりたいと言う人も増えているだろう。そんな中、英語を安く学べる国として、さりげなく注目を浴びているのがマレーシアだ。英語を本格的に海外で習いたいけど、アメリカやイギリスは物価が高いので金銭的にちょっと無理と言う人に取っては朗報である。現にマレーシア国内には留学生を対象とする英語学校が沢山あり、英語を習う為にアジア各国からマレーシアにやって来ている。留学生の多くはイランや中東、主に湾岸諸国からである。イスラムが中東とマレーシアを結ぶ架け橋になっているのもひとつのポイントだ。

時々マレーシアの英語は『初級、中級者向け』と良く分からない対象で評価されている。その理由はマレーシアの英語は通称「マングリッシュ」と言われるマレー半島で話されている独特な英語だ。要するにマレー語や中国語を始めとするアジアの言語と英語が所々でミックスされているのだ。マングリッシュもシンガポールの『シングリッシュ』も国によって呼び名が変わってるだけで基本的にどちらも一緒である。もちろんアメリカやイギリスの英語とは二味ほど異なる表現なので、時々ネイティブスピーカーには通じない時もある。ちなみに、語学学校内では正しい英語の使い方を教えてくれるが、マレーシア人教師からはマン

グリッシュがよく飛び出す。

マングリッシュの特徴は発音がそれぞれの人種の母国語訛りになっている事や単語が短く発音され、語尾が省略される事、そして文の終わりに「ヤー」、「ナー」、「ラー」が付く。あと文法も何かおかしい時がある。例えば華人は中国語訛りの英語で、「Car park」を「カッパツ」と言う様に語尾がなくなる。また典型的なのは文の終わりに「～ラー」をつけることだ。使用例は「OK ラー！」である。



る。この「ラー」は中国語の文法で語尾につける「了」(ラー)であり、それが英語にもくっついてしまう。意味としては「～だよ」、「～だね」な感じだろう。私が特に面白いと思ったのは「Can you ～？」と聞かれて可能な時は「Can can!」、不

可能な時は「Can not!」と答える事だ。このように助動詞だけで答える事は英語圏では使わないらしい。この Can can は使い安い故、普段使う表現として定着しやすい。私もよく使ってしまう。と言うより正しい英語と信じていた。文法はあまりややこしい事は使わず、シンプルになる。時々、文法的に正しい表現や、あまり使わない単語や表現をすると逆に通じない。更に、あまりにも英語がペラペラ

過ぎて通じない事があり、相手から「英語をちゃんと話せるのか？」とお叱りを受ける事があるそうだ。

マングリッシュには日本語にも共通した感覚がある様な気がする。『Can can』は日本語で言うと「できるできる」であり、この2回繰り返すと言う発想は日本人にもある感覚だ。文法的に変なものもあるがそれをよく考えると日本の文法にも似ている表現がある。文法がめっちゃめっちゃだけど感覚的に理解出来る事も多々ある。例えば「今日のチャーハンが売れ切れた。明日なら大丈夫ですよ。」=Today,

fried rice is already gone. Tomorrow Can. という表現になる。直訳すれば、日本語と同じ文法になってしまうのだ。逆に日本人の中でそのままの『ルー大柴』みたいな英語？を話す日本人も実際にいるけど、意外と意思疎通が出来てしまうのが面白い。それをネイティブスピーカーで試すと「???」な顔をされる。故にアジア人の中にネイティブスピーカーには無い何か共通の表現と理解の形があるのかもしれない。

【インド通信】10号

南インドの古典音楽

佐藤友美

〔1986 年生。幼少期をオーストラリアとシンガポールで、10 代は埼玉県で過ごす。オーストラリア国立大学でサンスクリット語と日本語言語学を学ぶが、優等学位のために書いた論文は津田梅子に関するものだった。その後東京外国語大学の博士課程前期に入学するも、現在休学してインド・ケーララ州で日本語教師として企業勤務。現在の主な関心はケーララ芸能。〕

12 月から 2 月にかけては、南インドの芸能が盛り上がる時期です。特に著しいのはタミル・ナードゥ州のチェンナイ（マルガリ・シーズンと呼ばれ、毎日どこかしらで芸能プログラムがある）ですが、ケーララでも新年のこの時期は各地の寺院でお祭りが開催され、州都トリパンドラムでは高名な音楽家や舞踊家を招いた芸能イベントも数多く行われます。

よく、インド古典音楽と日本で紹介されるものは、大抵が北インド音楽です。ムガル帝国など、イスラム宮廷の華麗な音楽の影響も受けたスタイル、特にカヤールと呼ばれるジャンルが主流だと思います。有名な弦楽器シタールも、カヤールの楽器です。

南インドの古典音楽は、カルナータカ音楽、もしくはカルナティック音楽と呼ばれるものです。ここでは、シタールではなくヴィーナ、太鼓もタブラではなく両面太鼓のムリダングムが使用されます。リズムにあたるターラのシステム、西洋のコードのような（あくまで「ような」であって、実際には全く違う）ラーガのシステムも、南北で違います。同じ名前のラーガであっても、全く違うものである場合が多いです。



私は北インド音楽については門外漢ですので、ここでは基本的に、南インド音楽の話をします。ケーララで開催される古典音楽のコンサートは、基本的には無料です。チェンナイではまた事情も違って来ようのですが、私は今のところ、コンサートにお金を払ったことはありません。

南インド古典のコンサートでは、観客にもある程度の知識や教養が求められる部分があります。もちろん、実力者のコンサートであ

れば、何も分からなくても楽しめるものです。しかし、ここで主眼となるのは、歌



い手（あるいは、ヴィーナや笛の奏者）であれば、いかにラーガを歌いこなせているか。いかに、ターラの制約の中で創造性を発揮しながら、ラーガの深い理解を示せるか。バイオリニストは、いかに正確に、かつ美しく歌い手の旋律を追いかけるか。打楽器奏者は、いかに効果的に歌をサポートしつつ、ソロではターラの枠の中で技巧と創造性を見せられるか。

どのような音楽でもそういった側面はありますが、特に南インド音楽においては、曲目などもその場その場で決められるし、即興パートも多いし、奏者と奏者だけでなく、観客と奏者のコミュニケーション、という要素がとても強いんです。ですから、知識の無い状態で聴くと、敬遠されることも多いでしょうが、一度その魅力に目覚めてしまうと、抜け出せなくなってしまう力があるようです。

<http://www.youtube.com/watch?v=g8QoLdljFzIs>

今回ご紹介したのは、南インド全体の古典とも言える、カルナータカ音楽ですが、ケーララ土着の音楽や芸能についても、いずれご紹介したいと思います。

<バイオマス産業社会ネットワーク (BIN) 第 121 回研究会のご案内>

日 時：2013 年 2 月 26 日（火）18：30～20：30

テーマ：バイオマス発電・熱利用と方向性

講演者：竹林征雄（NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク副理事長）

会 場：地球環境パートナーシッププラザ

(東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学 1F)

地下鉄表参道駅より徒歩 5 分・JR 他渋谷駅より徒歩 10 分

<http://www.geoc.jp/access>

参加費：BIN 会員 無料、一般 1,000 円

※日本のバイオマス利用が新しい段階に入って 10 年余りがたちました。311 を契機に、再生可能エネルギー促進の国民的合意が形成され、再生可能エネルギー電力買取制度も始まりしました。※再生可能エネルギーのなかで最も多く使われているバイオマスにも注目が集まり、各地で取り組みや計画が

行われています。

※その一方で、過去の事例の成功・失敗の経験や知見が充分シェアされておらず、同じような失敗が繰り返されている例も見られます。

※第 121 回研究会では、バイオマス産業社会ネットワーク副理事長竹林征雄より、最近の木質バイオマス熱利用やメタン発酵等の事例を紹介し、今後のバイオマス産業がどうあるべきか、参加者の皆様とともに議論できれば大変、幸いです。

※参加をご希望される方は、下記よりお申し込みください。

<http://www.npobin.net/apply/>

メディア・ユーラシア情報 ネットリサーチ

東京外国語大学「日本語で読む中東メディア」が注目 <http://www.tufs.ac.jp/common/prmeis/fs/> です。

[北アジア(含むロシア)]

○ ロシア地方首長選の大統領任命制への変更、下院が法案承認 2013 年 01 月 24 日 18:24 JST

[モスクワ 24 日 ロイター] ロシア下院は 23 日、州や共和国など 83 の連邦構成主体の首長選について、現在の公選制を廃止し、プーチン大統領が候補者を任命する制度に変更する法案を賛成多数で承認した。

同法案は、各構成主体が公選制を廃止し、プーチン大統領が候補者 3 人を選び、構成主体の議会が首長を選出する内容。プーチン大統領は過去に大統領を務めた 2000—08 年、構成主体首長選の候補者の大統領任命制を導入。しかし昨年、プー

チン氏への抗議デモが相次ぎ、公選制が復活していた。

大統領任命制の支持者らは、同法案がイスラム武装勢力の活動する北カフカスなど、多民族が居住する構成主体での首長選で公選制を廃止することが主な目的だとの見方を示した。ロシア政府は、これらの地域では、政府への忠誠心が低かったり騒乱を起こしたりする可能性のある候補者が首長選に出馬することを懸念しているという。

<http://jp.reuters.com/article/jpRussia/idJPTYE90N04U20130124>

[西アジア]

○ 10 邦人は全員死亡、人質事件 政府、残る 1 人も確認

菅義偉官房長官は 24 日夜、緊急記者会見し、アルジェリア人質事件で最後まで安否が不明だった日本人男性 1 人の死亡を確認したと発表した。これで、被害に遭ったブラント建設大手・日揮（横浜市）の日本人の現地駐在員 17 人のうち犠牲者は 10 人となった。無事だった 7 人と犠牲者 9 人の遺体は、政府専用機で 25 日午前 7 時ごろに帰国する。菅氏は帰国を受け犠牲者 10 人の氏名を公表する方針だ。

10 人目に死亡が確認されたのは日揮の前副社長で最高顧問の新谷正法さん（66）。身元は指輪などの遺留品で確認した。遺体は城内実外務政務官とともに 26 日か 27 日に民間機で帰国する見通し。2013/01/25 01:07 【共同通信】

<http://www.47news.jp/CN/201301/CN2013012401001178.html>

○ 指示は「日本人の人質」と自供 アルジェリア紙報道

【アルジェ共同】アルジェリア紙、アッシュルーク（電子版）は 24 日、同国南東部で起きた人質事件で逮捕されたイスラム武装勢力の男が、指導者のベルモフタール司令官からフランス人と英国人、日本人の計 5 人を人質に取るよう指示されていたと報じた。日本人が標的だったことを示す具体的供述が明らかになるのは初めてとみられる。

男はチュニジア人のアブタルハ・トンシ容疑者。治安当局の

調べに人質事件の実行グループである「血盟旅団」を傘下組織として率いるベルモフタール司令官から、フランス人を中心に英国人と日本人を人質に取るよう命じられたと話した。なぜ 5 人かは明らかでないという。2013/01/25 05:27 【共同通信】

<http://www.47news.jp/CN/201301/CN2013012401001968.html>

○ イラン、空でも孤立 欧州便の撤退相次ぐ

2013. 1. 24 17:03

欧州航空各社が、イランの首都テヘランと欧州を結ぶ路線から相次いで撤退している。核兵器開発疑惑をめぐり欧米が厳しい制裁を科す影響で、イラン経済が急激に悪化し、利用客が大きく減っていることが主な原因。国際社会でのイランの孤立は空でも徐々に進んでいる。

「もはや需要がない」。今月 13 日を最後にウィーン—テヘラン便の廃止を決めたオーストリア航空の報道官は 12 日、撤退理由をこう説明した。同航空は昨年 1 月、週 4 便運航していた同路線を週 3 便に減らしたばかり。

エールフランス—KLM も 12 日、「経済的理由」のため、現在は週 4 便運航しているアムステルダム—テヘラン便を 4 月に廃止すると表明した。（共同）

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130124/mds13012417040007-n1.htm>

[南アジア]

○ 警察施設を襲撃、11 人負傷 アフガン首都でタリバン

2013. 1. 21 16:56

アフガニスタンの首都カブール西部にある警察施設から立ち上る黒煙（AP）

アフガニスタンの首都カブール西部にある警察施設を21日、武装した3人組の男が襲撃、警察と銃撃戦となり、警察官ら11人が負傷した。男のうち2人は射殺された。地元警察が明らかにした。

反政府武装勢力タリバンが犯行を認める声明を出した。カブ

ールは国内で最も厳重な警備が敷かれているが、タリバンによる襲撃やテロが絶えない。

カブールでは16日にも情報機関、国家保安局の施設をタリバンが襲撃。同局によると、職員1人が死亡、市民ら17人が負傷した。（共同）

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130121/asi13012116560000-n1.htm>

【東南アジア】

○ スー・チー氏 訪日の意向

2012.11.17 01:18

【ニューデリー＝岩田智雄】インドを訪問中のミャンマー最大野党・国民民主連盟（NLD）のアウン・サン・スー・チー氏は16日、産経新聞の取材に対し、訪日する意向があることを明らかにした。

スー・チー氏はニューデリーにあるミャンマー難民の学校で講演した後、「日本を訪問する計画があるか」との質問に「はい」と答えたが、計画そのものについては「まだはっきりしていない」と述べた。

日本はスー・チー氏にとり、1985～86年に京都大学東南アジア研究センターの客員研究員として滞在したゆかりの地。父親でビルマ（現ミャンマー）独立の英雄、アウン・サン将軍も第2次大戦開戦前に日本に逃れたことがある。

スー・チー氏はかつて学んだ英国や多くのミャンマー人難民が住むタイ、国連職員として勤務した米国などをすでに訪問している。

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/121117/asi12111701220000-n1.htm>

【東アジア】

○ 中国、日米に中台「共闘」アピール 2013.1.25 01:26

【台北＝吉村剛史、北京＝矢板明夫】沖縄県・尖閣諸島沖の接続水域に24日、台湾の抗議船、巡視船と中国の海洋監視船が入った。中台の船舶が同時に尖閣沖に現れるのは異例だ。中国船が台湾船に協力しようとする動きも見せており、中国側には中台「共闘」を日米両国にアピールする思惑があったようだ。

台湾の海岸巡防署（海上保安庁に相当）によると、台湾抗議船が接続水域に入った後、中国の海洋監視船が現れ、しばらく同行。これに対し付近を航行していた台湾の巡視船が中国船に離れるよう求めたという。

中国外務省の洪磊報道官は同日の記者会見で、「尖閣諸島に接近する台湾の船を中国は支援するのか」との質問に、「釣魚島（尖閣諸島の中国名）に関する中国の立場は一貫している。私たちは事態の発展に注目している」と語った。

共産党筋によれば、中国政府は台湾や香港の船が尖閣海域に入ることを支持する立場で、水面下で資金援助を行っているという。中国の政府関係者は「台湾や香港の船が前面に出れば、中日の対立という構図でなくなり、米国は介入しにくくなる」と指摘している。

台湾当局が今回、活動家らの出港を許した背景として、与党・中国国民党幹部は、対中融和に取り組んできた馬英九政権が尖閣をめぐる日本や米国と対立する中国側に配慮したとの見方を示し、中国の圧力があつた可能性も示唆している。

活動家らが所属する中華保釣協会の狙いとしては、2月の旧正月前に中国財界などから寄付金を集めることだったとみられている。

ただ、今回の問題で、尖閣周辺海域の扱いが焦点の日台漁業協議再開に向けた準備が先送りされる可能性がある。今年前半中が目標とされた漁業協定締結にも影響しそうだ。

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130125/chn1301250127>

○ 中国機へのスクランブル、過去最多の160回

2013.1.24 23:52 [自衛隊]

中国機に対する航空自衛隊の戦闘機の緊急発進（スクランブル）が平成24年度第3四半期まで（昨年4～12月）で160回に上り、23年度通期の156回を超えてすでに過去最多となっていることが24日、防衛省統合幕僚監部のまとめで分かった。公船による沖縄県・尖閣諸島周辺への領海侵入と並行し、中国が尖閣を含む東シナ海の空域でも急激に圧力を強めている実態を裏付けた。

統幕によると、160回のうち6割近い91回が第3四半期（10～12月）にあり、3カ月での回数でも過去最多を記録。昨年12月13日には中国国家海洋局のプロペラ機「Y12」が初めて領空侵犯しており、昨年9月の尖閣国有化の後、中国機による飛行が急激に活発化したことによる。接近した機種は軍用機の「Y8」など情報収集を任務とする早期警戒機が最多だった。

中国機への緊急発進は20年度31回▽21年度38回▽22年度96回▽23年度156回と急増しており、今後も増加が確実とみられる。尖閣諸島付近での軍用機による領空侵犯も次第に現実味を帯びつつある。

空自は、12月の領空侵犯以降、早期警戒機E2Cや空中警戒管制機（AWACS）を投入して尖閣周辺の警戒を強めているが「ギリギリの運用で常時監視は困難」（自衛隊幹部）とされる。政府は25年度予算の概算要求に那覇基地でのE2C運用基盤整備など、南西諸島の防空体制強化策を盛り込んでおり、いっそうの対応が急務となる。

一方、ロシア機への緊急発進は180回で前年4～12月の175回から微増。こちらも「IL20」など情報収集機が最多といい、日本海の領空に沿うように尖閣諸島北方まで進出し

たケースや、北海道を東回りに小笠原諸島近辺まで近づいたケースもあった。

<http://sankei.jp.msn.com/politics/news/130124/plc13012423540013-n1.htm>

○ 中国要人が棚上げ提案 尖閣問題 公明山口代表に

【北京共同】公明党の山口那津男代表は24日午後、中国共産党の王家瑞中央対外連絡部長と北京で会談した。公明党の同行筋によると、懸案の沖縄県・尖閣諸島をめぐり、王氏は「今の指導者が解決できないとすれば後の世代に解決を託すこともある」と事実上の「棚上げ」を提案した。山口氏は「大局観に立って冷静に対処すべきだ」と述べるにとどめた。

一方、山口氏と中国新体制トップの習近平共産党総書記は25日午前（日本時間同）に北京市内の人民大会堂で会談する方向で最終調整に入った。山口氏は習氏に宛てた安倍晋三首相の親書を携えており、日中首脳会談の早期開催を働き掛ける。

2013/01/24 23:12 【共同通信】

<http://www.47news.jp/CN/201301/CN2013012401001718.html>

○ 米報道官「われわれに懸念向けるより対話を」 尖閣で「言行慎め」の中国に反論 2013.1.23 11:15 [中国]

【ワシントン＝犬塚陽介】米務省のヌランド報道官は22日の記者会見で、沖縄県・尖閣諸島に関するクリントン務長官の発言に中国外務省の報道官が「言行を慎むように」と反発したことについて、「中国はわれわれに懸念を向けるよりも、対話での問題解決を試みるため、日本政府とともに取り組むべきだ」と反論した。

ヌランド報道官はまた、「日本の施政権を害そうとするいかなる一方的な行為にも反対する」としたクリントン長官の発言は「長年の米国の立場」を示したに過ぎないと強調し、「強い不満と断固とした反対」を表明した中国側の見解を退けた。

一方で、日中双方が対話の席に着かなければ「いかなる解決策も見いだせないだろう」と指摘。「安倍政権のハイレベルな使節団」の訪中実現を歓迎し、本格的な対話の一步となることを「期待している」と述べた。

使節団は安倍晋三首相の親書を携えた公明党の山口那津男代表の訪中を指しているものとみられる。

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130123/chn13012311170002-n1.htm>

○ 韓国、李大統領の兄に実刑 懲役2年、不正資金受領

【ソウル共同】韓国の李明博大統領の実兄で、不正資金を受け取ったとして政治資金法違反などの罪に問われた元国会議員の李相得被告（77）に対し、ソウル中央地裁は24日、懲役2年と追徴金約7億5千万ウォン（約6300万円）の実刑判決を言い渡した。聯合ニュースが報じた。

韓国で現職大統領のきょうだいの実刑判決を受けたのは初めて。来月に5年間の任期を終える李大統領にとっても厳しい判決となった。

判決などによると、李被告は国会副議長だった2007年以降、後に営業停止処分を受けた金融機関の経営者らから計約7億5千万ウォンの不正資金を受け取った。

2013/01/24 20:01 【共同通信】

<http://www.47news.jp/CN/201301/CN2013012401001700.html>

○ 中国漁船、日本領海で拿捕される＝新華社

2013年01月25日03:18 JST

【北京 24日 ロイター】新華社は24日、中国の漁船1隻が日本の領海で当局により拿捕（だほ）されたと報じた。報道によると、漁船は長崎県・五島沖で発見された。船長は取り調べを受けた後、当局により連行されたという。

<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTJE90N01Y20130124>

○ 首相、政府主導で廃炉作業と表明 地方活性化へインフラ拡充

安倍晋三首相は24日、官邸で共同通信のインタビューに応じ、東京電力福島第1原発の廃炉について「一日も早く進めることが福島の復興の前提になる。東電に背負わせるのは無理だ。国が前面に出る」と述べ、政府が主動的な役割を果たし、作業を加速させる考えを表明した。地域活性化へインフラ整備の拡充など財政政策を重視する姿勢も強調。環太平洋連携協定（TPP）交渉参加では、日本経済への影響を再試算した結果を踏まえ判断する意向を示した。

国主導での廃炉は、30年以上かかるとされる期間を圧縮し、福島復興をばねに日本全体の再生につなげる狙いがある。

2013/01/24 20:17 【共同通信】

<http://www.47news.jp/CN/201301/CN2013012401001261.html>

○ 中国、西沙への「闇ツアー」横行 南シナ海めぐり

2013.1.24 07:00 [中国]

【上海＝河崎真澄】南シナ海で中国やベトナムなどが領有権を争う西沙（英語名・パラセル）諸島を、中国・海南島からのチャーター漁船で無許可上陸する「闇ツアー」が横行している。同諸島は観光客に開放されておらず、当局が摘発すれば罰金など処分を受けるが、一方でツアー募集は黙認されており、中国当局による実効支配の自信の表れとも受け取れる。

上海の夕刊紙、新民日報などによると、海南省海南島の海口や三亜から、漁船に約30人を乗せて出発するツアーで、約18時間で西沙諸島に到着。自然のままの島に上陸するという。業者によると、年間数千人がツアーに参加している。

5～7日間のツアーは食事付き1人7千元（約10万円）前後と料金は海外旅行並み。だが「前人未到の中国領土を訪れる」との“うたい文句”が受け、2月9日から9日間の春節（旧正月）連休に向けて、宣伝合戦も過熱気味だという。

ツアーの募集業者は、当局の摘発を免れるため、「公務員による自国領土視察ツアーの形を取っている」と話した。

ただ、今月8日には観光客23人とガイドを乗せた漁船が故障して立ち往生。中国当局の船舶に救助される事故が起きた。ベトナムなど中国以外の船舶に遭遇する事態も想定され、観光客らの安全確保は考慮されていない。

西沙諸島には海南省の船会社が許可を受けて観光フェリーを試験運航したことがあるほか、2015年までに同諸島にレジャー施設を建設する計画がある。

- ユーラシアンクラブ・愛川サライの運営スタッフを募集します。アジア・シルクロードの諸民族の方々との交流を通して、アジアを視野に国家民族宗教を超えた理解親睦協力を促進し、諸民族の共生、自然との共生を模索して活動します。
- アジア各地からの投稿を歓迎します。ユーラシアンクラブ・企画編集委員会までお知らせください。

【愛川サライ動向】

I 「水の里愛川—ホッとする空間『中津川水辺プロジェクト』」神奈川県間伐材事業として申請

愛川サライも一員として参加するまちづくりネットワーク中津川（諏訪部勲代表）は、「愛川町との協働事業」の提案申請を取り下げた「水辺プロジェクト」を、神奈川県産材を利活用する住民の自主事業として、神奈川県も・みずが市民事業支援補助金に申請しました。

た。水源環境保全・再生市民事業支援補助金とも呼ばれるもので、神奈川県産の間伐材を利活用する水源事業として事業の趣旨にかなうことから申請したものです。加工に必要な工具類の購入費用等が補助の対象となっています。

II まちづくりネットワーク中津川に副代表 3 人就任

まちづくりネットワーク中津川は、総会を開き、今後の活動を拡充する為、副代表 3 人の就任を決めました。愛川町半原で両向行政区の区長をされている中島良一さん、中津の上熊坂行政区の区長をされている足立原泰さん、愛川町で社会福祉法人を営んでいる関

根近臣さんです。また、団体の名称も「まちづくりネットワーク中津川」から「まちづくりネットワーク愛川」への変更が検討されました。

III 篠笛教室開催で半原行政区のブロック長に協力要請

3 月 30 日に開催を予定している「篠笛教室」開催で、半原行政区の中台康文区長（半原 5 行政区のブロック長）に、地元半原神社に奉納するお囃子で、篠笛を演奏する子どもたちが「篠笛教室」に参

加するよう働きかけてほしいと要請しました。また、愛川高校和太鼓部 OB で後進のまとめ役でもある篠笛を演奏する網島健司さんに教室運営の協力を依頼しました。

IV ロシア連邦サハ共和国の児童 30 人が和太鼓研修を希望、調整中

3 年前、神奈川県愛川町の繊維産業会館で一週間、金子竜太郎さん（元和太鼓集団「鼓童」のトップ演奏者；現在独立しソロアーティストとして活躍中）がサハの児童 16 人と合宿し、神奈川県立愛川高校武道館を研修場として愛川高校和太鼓部（昨年県大会 3 位）の全面的な協力を得て和太鼓の基礎から研修し、楽曲一つを完成し、愛川町文化会館で発表しました。その成果は、帰国後サハ国内で高い評価を受けて、再研修の要望が出ていました。しかし、一昨年は東日本大震災の影響で研修を取りやめ、金子さんが一昨年と昨年、二度にわたりサハを訪ねて指導に当たっていました。愛川町での研

修は昨年夏ごろから希望として出ていましたが、最近になって児童の父母たちが集まり、真剣に派遣について協議したと言います。先般、受け入れ環境について問い合わせがあり、派遣したい児童の数は、3 年前（16 人）の倍にあたる 30 人（指導者含め）と連絡がありました。現在、宿泊所を含め受け入れ環境を調整しています。町内の旅館はどれも予約で一杯で、前回通り繊維産業会館の和室を借りるとすれば、食事や愛川高校までの送迎等かなりの数の協力者のローテーションを組むことになります。地域の協力を得られるよう話し合い、調整を始めています。

発行：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ 発行人：江藤セデカ
住所：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-11-5 TEL：03-5376-9343
支部愛川サライ 〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314-1
TEL：046-285-4895 FAX：046-265-0167 E-MAIL：paf02266@nifty.ne.jp
郵便振替：00190-7-87777 ユーラシアンクラブ お振込の場合：ゆうちょ銀行〇一〇九店 当座預金 0087777 ユーラシアンクラブ 会費、ご寄付はこちらへ。会費は正会員年間 1 口 3,000 円、学生会員 1,000 円、賛同会員 2,000 円。一口以上のご協力をお願い申し上げます。

<http://eurasianclub.org/>

2013 0201 Non Profit Organization Eurasian Club

編集後記：20 周年の集いの会場が決まった。日本橋での開催が決まってホッとしている。音楽を通じた交流の最後に見えたアジアとの要の地は日本橋であった。そして私が住むことになった愛川町には東丹沢を中心に旧相模国に伝わった循環する水の物語がインド・イランにつながっている。クラブの新指導部は、アジアが見えるペルシャとモンゴルの出身者。江藤セデカさんはアフガニスタン出身で復興支援を続け、バーボルドさんはモンゴル文化の継承や子供たちの支援を続けている。日本のアイヌからアジアの少数民族まで目配りのある、国家民族宗教を超えた活動の展開を模索中です。留学生やさまざまな民族文化と歩む活動に期待です（お）